



岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 2 年 7 月 30 日

アルツハイマー病患者さんの不安定な精神状態への より良い処方薬についての研究（岡山うつアパシープロジェクト）

◆発表のポイント

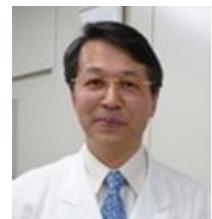
- ・岡山大学病院脳神経内科のアルツハイマー病患者さんで、うつスコアやアパシースコアの高い人を対象に、その症状を改善するのに効果的な処方薬について研究しました。
- ・同じ抗うつ剤でも、レキサプロ®はアルツハイマー病のうつ症状が強い患者に、そしてジェイゾロフト®は同病のアパシー症状が強い患者にすすめの処方であるのかもしれない、という興味深い結果が出ました。
- ・うつ症状とアパシーそれぞれに注目し薬の効果を確認した研究報告は世界で初めてです。

アルツハイマー病患者にはうつ症状やアパシーといった意欲低下症状が認められます。アパシー（apathy）とは、ギリシャ語のa=失う、pathos=感情・苦悩を組み合わせた言葉であり、喜怒哀楽の感情がなくなった状態を指します。アパシーは認知症初期から認められる人が多いとされる、うつ状態と似た精神症状です。うつ症状は、やらなければならないといった気持ちはあるのにやる気が出ないことに患者自身が苦しみ、アパシーは患者自身の苦しみはないのですが、そのぼうっとしている患者の様子を見て家族など介護者がどうしたのだろうと心配になる、という特徴があります。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医）の阿部康二教授と武本麻美助教の研究グループは同大学病院に通うアルツハイマー病患者を対象としてうつ・アパシーといった精神症状の改善に効果がある抗うつ薬は何であるか研究してみました。その結果、同じ抗うつ剤であっても、エスタロプラム（レキサプロ®）はうつ症状改善に、セルトラリン（ジェイゾロフト®）はアパシーの改善により強い効果があるようだという結果を得ました。

世界で初めての報告であり、2020年6月15日、米国の「*Journal of Alzheimer's disease*（JAD）」にオンライン上で掲載され、7月刊行の学会誌に掲載されます。

アルツハイマー病患者さんの精神症状に対してより細やかに処方薬の選択を行うことで、心が元気になり、その人らしい人生を送って頂けるきっかけになる研究成果かもしれません！

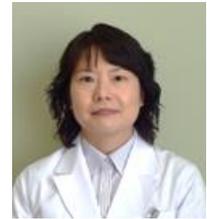


阿部教授



PRESS RELEASE

アルツハイマー病患者さんの心の状態が、いかに奥深いものかという事が今回の研究でよく分かりました！



武本助教

■発表内容

<現状>

厚生労働省によりますと、高齢化社会の我が国では、2012年時点で65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症患者(約462万人)ということですが、2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症患者であると益々の増加が予測されています。その認知症の中で一番多い、約70%を占めるアルツハイマー病患者は、もの忘れ症状だけでなく、その症状と共に生じてくる不安感やうつ状態、アパシーと言う無感情な状態などの精神症状でも患者本人や介護をする家族が苦しんでいます。

<研究成果の内容>

今回我々の研究グループは、岡山大学病院脳神経内科外来へ通院しているアルツハイマー病患者さんの中で、うつの重症度が分かるGDSスコアもしくはアパシーの重症度が分かるアパシースコア(どちらも全世界で使用されているスコアです)の高かった患者さんを研究対象として抗うつ剤であるエスシタロプラム(レクサプロ®)、セルトラリン(ジェイゾロフト®)、脳梗塞後の意欲低下に効果があるとされている脳循環改善薬ニセルゴリン(サアミオン®)の3種類の薬のうち1剤を1人1人の患者さんに投与し、投与開始時と3カ月後のGDSとアパシースコアの改善度を評価してみました。このようにうつ症状とアパシーそれぞれに注目し薬の効果を確認した研究報告は世界で初めてでした。その結果、うつ症状が目立っている状態の患者さんにはエスシタロプラム(レクサプロ®)、アパシーが目立つ患者さんにはセルトラリン(ジェイゾロフト®)がその改善効果が高いのではないかと今回の研究結果から分かりました。ニセルゴリン(サアミオン®)はうつ状態にもアパシーにも効果がありませんでした。

<社会的な意義>

認知症患者さんの精神症状は一律ではなく、それぞれの患者さんで違いがあります。今回の研究結果から分かったように、精神症状の違いに注意して抗うつ剤を選択することによって、患者さんの精神状態をより改善させ、生活の質を向上させることが可能となり、介護者の負担も軽減出来るといった可能性が予想されました。これからも引き続き研究を継続していきます。

■論文情報

論文名 : The efficacy of sertraline, escitalopram, and nicergoline in the treatment of depression and apathy in Alzheimer's disease: The Okayama Depression and



PRESS RELEASE

Apathy Project (ODAP)

掲載紙 : *Journal of Alzheimer's disease*

著者 : Mami Takemoto, Yasuyuki Ohta, Nozomi Hishikawa, Toru Yamashita, Emi Nomura, Keiichiro
Tsunoda, Ryo Sasaki, Koh Tadokoro, Namiko Matsumoto, Yoshio Omote, and Koji Abe

DOI : 10.3233/JAD-200247. Online ahead of print.

＜お問い合わせ＞

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学
教授 阿部康二

(電話番号) 086-235-7365

(FAX) 086-235-7368

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学
助教 武本麻美

(電話番号) 086-235-7365

(FAX) 086-235-7368



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。